



運動会目前

5 月 25 日（日）は、統合後初めての運動会を行います。大型連休後から子どもたちは各学年の種目や開閉会式等の練習を重ねてきました。

運動会は当然ですが、体を動かすことが主となる行事です。ですから運動に長けた子に注目が集まりがちです。

しかし、運動会は競争や競走をすることばかりが目的ではありません。運動の得手不得手に関わらず、運動会という行事を盛り上げる、成功させるために自分ができることを考え、取り組むことがとても大切になります。

例えば、「勝敗に関わらず最後まで競技をやり抜く」

「チーム分け隔てなく頑張っている人に声援と称賛を送る」

「自分の係に責任を持って取り組む」

「特に高学年はリーダーとしての資質を育む」

「体を動かすことを楽しむ」 などが挙げられます。

運動会を通して、子どもたちの様々な姿を見ていただければと思います。時間等については以下のとおりです。

日時 令和 7 年 5 月 25 日（日） 雨天順延の場合、学校ホームページでお知らせします。

開会式 8 時 45 分 競技開始 9 時 05 分

場所 小長井小学校運動場

備考 プログラムを学校ホームページ掲載します。上の QR コードからアクセスするか「諫早市立小長井小学校」で検索ください。

当日は、駐車場所として小長井文化ホールの駐車場もお借りしています。学校周辺の駐車場所に駐車できない場合、文化ホール駐車場もご利用ください。

当日の天候しだいでは、熱中症の懸念もあります。適宜水分補給をされ、安全に参観ください。



国内の事件・事故より

先週（5/5～5/9）は学校が関係する事件・事故の報道が目立ちました。子どもたちにこのようなことが起きないように十分な注意と配慮が必要だと思います。

【東京都・小学校】

2 年生の教室に男二人が乱入し、取り押さえようとした教職員 5 人にけがを負わせ、現行犯逮捕。男はこの小学校に通う 2 年生保護者（母親）の友人との報道。

↓

学校の対応に何かしらの不満があったのかもしれませんが、暴力や脅しで意を示すことの我が子への影響を考えていない浅はかさを感じます。このような行為については当然ですが法的対応が必要だと思います。

【山口県・小学校】

学校敷地内で男子児童が乗用車にはねられ、ろっ骨を折る大けが。乗用車を運転していたのは 40 代の女性会社員との報道。

↓

加害の女性会社員が保護者なのか業者なのかわかりませんが、学校敷地内への車の乗り入れがとても危険であることを示している事例だと思います。

【千葉県・小学校】

教室に置いてあった防犯用催涙スプレーを児童が誤噴射。児童 27 人が目の痛みなどの体調不良を訴えるとの報道。

↓

物の置き場所について再考する必要がある事案だと思います。また、この事案の催涙スプレーに限らず、本校でも物の取扱い方について「いつ」「どのように」使う物なのかの確認が必要だと思いました。

【京都府・中学校】

体育の持久走の授業中、中 1 男子生徒が体調不良を訴え緊急搬送。その後死亡。男子生徒に持病はなく、事前の体調チェックでも元気、持久走の前に 10～15 分の軽いジョギングと準備運動との報道

↓

不慮の事故とも思いますが、持久走は慎重に取り扱う必要を感じています。



むごい教育

江戸幕府を開いた徳川家康が幼少期に人質として、今川家で生活をしていた時の話です。逸話・伝承の話なので真偽のほどは定かではありませんが、およそ次の通りです。

当時の今川家当主の今川義元は家臣に「竹千代（家康の幼名）には、むごい教育をせよ」と命じたそうです。そこで、家臣は厳しく剣の稽古をしたり、口やかましく接していたりしたそうです。すると、義元は「それは、むごい教育ではない」と家臣を叱ったそうです。

そして、むごい教育とは、好きなものだけを食べさせ、欲しいものは何でも与え、嫌なことやきついをさせず、竹千代の言うことは何でも聞くことだと家臣に教えたそうです。

これは、幼い竹千代の武将としての可能性を見抜いた義元が将来の脅威を除こうとしたためだと言われます。しかし、竹千代は長じて家康となり、江戸幕府 260 年の礎を築いたことは歴史のとおりです。

戦国時代の話なので、現代に丸ごと当てはめることはできない部分もありますが、子どもが自立する上で大切なことが含まれていると感じます。

子どもたちが成長する過程で、順風満帆、何の苦労もなく、挫折もせず、自分の意のままに事を成せばこれほど良いことはないでしょう。しかし、これは現実的ではありません。うまくいかないこと、悩ましいこと、壁にぶつかることがある方が現実的です。

その時、癪癪を起したり、すねたり、投げ出したりではなく、乗り越える力、解決する力、工夫する力が必要になってくるのは昔も今も変わらないのではないかと思います。

その力を蓄えるのは子どもの時期から少しずつ段階を追っていくのがいいと思います。「〇歳になったらできるよね」「大人になったらうまくいくよ」だけではあまりにも楽観的な気がしているのは私だけでしょうか。

甘えさせると甘やかす

昔読んだ本からの受け売りになりますが「甘えさせる」と「甘やかす」には次のような違いがあるそうです。

甘えさせる…もう少しでできそうなことに、ほんの少し力を貸して子どもの達成感をサポートすること

甘やかす……十分できることでも先回りし、してあげて、子どもの達成感を奪うこと



青春は密

先月末に娘の高校生活最後の運動会を見に行きました。そこでは走ったり、踊ったり運動場狭しと躍動する高校生の姿を見ることができました。

コロナ禍により運動会をはじめとした学校行事は、開催するしないという点も含めて、その活動を縮小せざるを得ない状況が一時期ありました。特に令和 2 年～令和 5 年に小中高校生だった年代は、コロナの影響を大きく受けた年代です。

そのような子どもたちの様子を目の当たりにしてきたからこそ、高校生が思う存分声を上げ、手をつなぎ、肩を組み、躍動する姿は、3 年前の夏の高校野球大会を制した野球部の監督さんの言葉通り「青春は密」でした。

大型連休が終わると、運動会の練習が始まります。統合後初めての運動会であるとともに、小学校として単独で行う運動会は今年も含め残りあと 3 回です。

小学生はそれぞれの学年が限られた時間で小学生の「らしさ」を精一杯出し切った運動会ができればと思います。ご家庭でも練習の様子を尋ねていただき、子どもたちの運動会に向かう気持ちを高めていただければと思います。

活動のつながり

令和 7 年度も早 1 か月が経ちました。学校では統合を終え、互いに新しい仲間と出会い、各学級での生活を送っているところです。

そのような中で、本日 (5/2) は歓迎集会・歓迎遠足を行いました。前日の雨で遠足に行けるかどうか危ぶまれましたが、何とか牧のグラウンドでの遠足が実施できました。

この歓迎集会や歓迎遠足は、1 年生の入学を大いに歓迎し、小長井小の一員としての気持ちを高めることが第一義ですが、6 年生のリーダーシップ向上や各学級の親睦を深める意味もあります。

このような活動が運動会へのチームワーク作りへとつながっていきます。一見すると遠足と運動会はそれぞれが単独で成立している活動に思えますが、「集団生活」や「社会性」という点では連続した活動であると言えます。

この他にも、学校での様々な活動や学びは関連し合って子どもたちの成長の糧となっています。ですから、子どもたちには多くの体験を通し、自分を磨いてほしいと思います。

そして、小学校生活の学びの集大成が卒業式であることは言うまでもありません。入学してからの一日一日が卒業式の輝きになっていくのです。

あおなみ-Blue Wave-

学校ホームページはこちらから→



ゴールデンウィークを前に

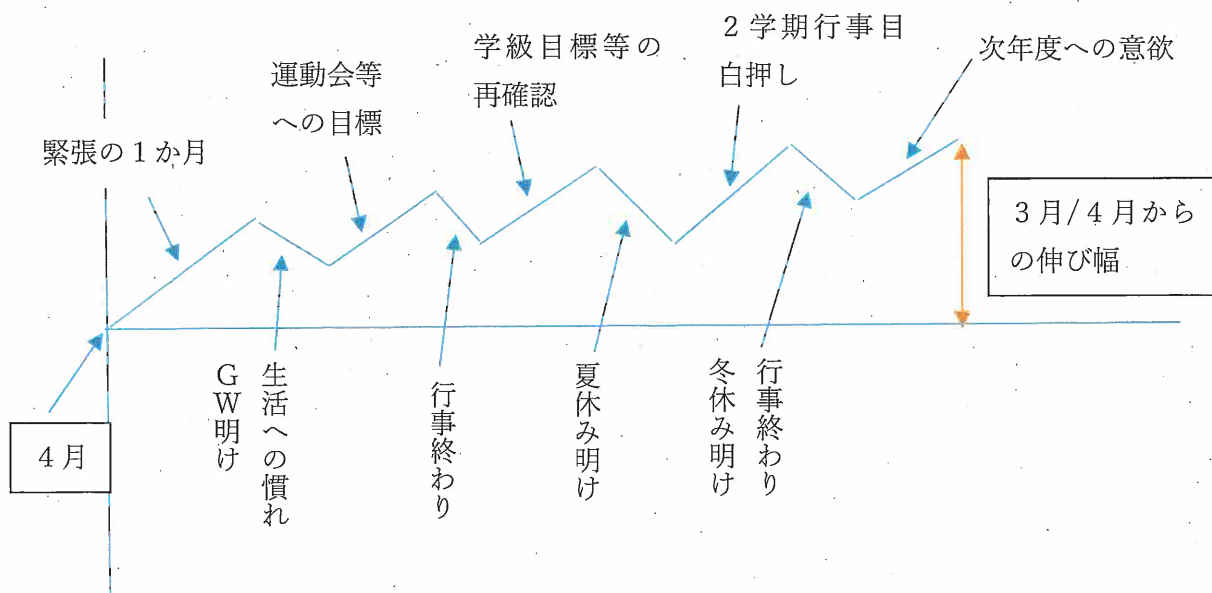
今週末からゴールデンウィークが始まります。今年は休日と休日の間が比較的空いており、少しお得感が薄れている感じもします。

さて、担任をしていた頃、子どもたちに話をしていたことの一つに「モチベーションが下がる時期」があります。それは、次の通りです。

- ① 新しい学年になった緊張ややる気が約 1 か月過ぎて慣れてきた頃に、ちょっと長い休みを挟むことで気持ちが緩む…**ゴールデンウィーク明け**
- ② **行事のあと**に大きな目標が過ぎたり、達成したりして目標を見失う
- ③ 長期の休みやカレンダー上のイベントで生活リズムが乱れる…**夏・冬休み明け**

大人でもこれらに当てはまるケースでは仕事への意欲が一時的に下がることもあると思います。ましてや子どもは言わずもがなです。そこで私の指導は「**下げ幅をどこまで抑えるか**」でした。4 月当初を基準とした時、そこを下回らないことを最低条件とし、行事や学級目標達成を材料に持ち直し、最終的に 3 月には 4 月当初より伸びている状態にすることを考えていました。

子どもたちの成長が右肩上がりなのは理想ですが、「下がる時期」を見据えた大人の対応も大切であると思っています。



あおなみ-Blue Wave-

学校ホームページはこちらから→



交通安全

4 月 21 日（月）、1・2 年生を対象とした交通安全教室を交通安全協会のご指導の下
行いました。

子どもたちは、しっかりと話を聞き、交通安全を通して自分の命を自分で守る行動の
大切さを学んでいたと思います。

私も子どもたちの登校時に、可能な限り校門の所で安全管理に努めるようにしていま
す。登校の様子を見ていると、新 1 年生と手をつないだり見守ったりしながら登校して
くる 6 年生を中心とした上学年の姿に頼もしさを感じているところです。

また、自家用車で送迎をされているご家庭におかれましても、本校の校門の所はご存
じのとおり、急なカーブで、見通しが決して良いとは言えず、運転がしづらい場所だと
思います。そのような中でも登校中の子どもたちの安全に配慮した運転をしていただい
ていることに感謝いたします。

その他にも各地区での道路事情があるかと思います。各ご家庭でもご自宅付近の交
通安全をお子様と確認されてみてはどうでしょうか。

熱中症

4 月も下旬に入りました。つい 1 か月ほど前までは「寒の戻り」と言われていました。
しかし、今は最高気温が 25 度前後になるのも珍しくなくなりました。

気温の上昇とともに心配されるのが「熱中症」です。毎年、緊急搬送されるニュース、
最悪の場合は亡くなってしまうニュースを耳にすることもあります。

本校の子どもたちは、昼休みになると外遊びをしている子が多くいます。帽子をかぶ
ること、水分補給をすることの注意喚起が放送されています。

これから、ますます気温が上昇するにしたがって、外遊びができない日が出てくるこ
とも想定されます。私が子どもの頃は「天気の良い日は外で遊びなさい」と言われてい
ました。しかし、今では「天気が良すぎるから外で遊ぶのは控えなさい」と言わないと
いけない時代です。

また、熱中症は屋内でも起こることがあります。お子様の中には屋外・屋内を問わず
スポーツに取り組んでおられるケースがあるかと思います。最近では過度な練習を強い
るようなスポーツクラブは減ってきているとは思いますが、お子様の熱中症に係る健康
状態については、学校でもご家庭でも十分留意していきたいところだと思っています。



習慣について

先日の夕方、小長井駅まで歩いていると、小長井中学校の生徒さんが「こんにちは」とあいさつをしてくれました。私とは面識がない生徒さんでしたが、何か気負うこともなくごく自然体でのあいさつでした。私も「こんにちは」と返したところでした。

朝、校門の所で立っていると、ほぼ全員「おはようございます！」と気持ちの良いあいさつをしてくれます。また、職員室に入ってくる子たちの中には「先生、こんにちは」とあいさつを添えて入ってくる子もいます。

先程の生徒さんも小学生の時からあいさつの習慣がついていたからこそ自然体のあいさつができたのだらうと思います。

誰彼構わずあいさつをするのは、思わぬことに巻き込まれかねないという心配もある昨今の風潮もありますが、せめて学校の中や自分の地域の中くらいは自然体のあいさつができる習慣はあってもいいと思っています。

.....

放課後、戸締りをしながら校内の様子を見てみると、ちょっと気になることがありました。

それはトイレのスリッパです。本校は校舎内に子どもたちが日常的に使うトイレが4カ所（男女各2カ所）あります。採点を◎△×で表すと、◎1、△2、×1という感じでした。×の1カ所はスリッパが踊っているのかな？と思える感じでした。

日本は場所が変わると靴を脱ぐ、履き替えるという文化です。家に入る時は靴を脱いで上がる場合がほとんどです。ご家庭で、お子様が脱いだ靴はどうでしょうか？

「三つ子の魂、百まで」ということわざがあります。幼少期の習慣は年を経てもその人の中に息づいているということです。

私自身、百とは言わなくとも還暦が見えてきている年齢に達しようとしています。それでも幼い時に身についた（身につけさせられた）ことは、役立っていることが多くあると感じます。例えば、身の回りの整理整頓をする習慣がその一つとして挙げられます。

一方で、習慣づいていないものもあり、苦勞することもあります。字を丁寧に書くことはいまだに苦手です。

年齢を重ねて、自然と解消する習慣もあるかと思いますが、よりよい習慣を子どもたちには身につけさせてあげたいものだと思います。



最近の報道から

先日、奈良県の中学生在が落雷により心肺停止になるという痛ましい事案がありました。部活動の前に起こったということでした。

始業式以来、天候が不安定な日が続いています。最近の天候の特徴の一つとして「急変する」があげられます。

子どもたちの中には、土砂降りにもかかわらず、傘もささずに駆け回っている子も見られました。

雨に濡れるだけならまだしも、雷は一瞬で命に係わる事態に陥ります。また、先日は雹（ひょう）が突然降ってきました。過去には雹によるケガや自動車が傷つくという事例もあっているそうです。

状況を踏まえた自分の身を守る行動ができるようにすることの大切さを感じます。

.....

1 年生も明日（4/16）から給食が始まります。それに伴って下校時刻も少し遅くなります。また、職員が伴わず自分たちで下校する機会も増えます。

最近の統計によると、信号機のない横断歩道で歩行者がいる時、止まってくれる自動車は 50% に満たないそうです。つまり、半数以上の自動車は、歩行者がいても止まらないということです。

さらに過去 5 年間の交通事故死傷者のうち 7 歳が最も多いとの報道もされています。7 歳は小学校 1 ～ 2 年生の時期です。

このようなことから登下校に限らず、普段の生活においても十分交通事故に注意した生活を送ってほしいと思います。

.....

オンラインゲームを通じて知り合った相手からゲームを巡ってトラブルとなり命を奪われた高校生のニュースがありました。また、SNS を通して言葉巧みに連れ出される事件も珍しい事件とは言えないとも思えます。

お子様が携帯端末を持っているご家庭もあるかと思います。その使用については、把握されているでしょうか。

学校にパソコンが導入され始めた 25 年ほど前、今よりインターネット等が整備されていない頃に出向いた研修で言われた話が今も記憶に残っています。

「子どもたちがインターネット環境を使うのは、無免許でスーパーカーを運転するようなものです。だから大人が指導・教育しないとイケないのです。」

25 年経っても通じることだと思いますが、いかがでしょうか。

あおなみ-Blue Wave-

学校ホームページはこちらから→



統合式

本日 (4/9)、入学式に先立ち、諫早市教育委員会主催による統合式が行われました。諫早市長様をはじめ、関係各所からも臨席を賜りましたことから、この統合の意義の大きさが感じられました。

式の中では 6 年生代表 3 名による統合後の小長井の小学校としての歴史を創っていくという思いを込めたあいさつがありました。

それぞれの小学校で培った歴史や伝統も大切しながら、新たな創造に満ちた学校になれるよう努めていく思いをもった統合式でした。

入学式

27 名の新入生を迎え、入学式を挙行いたしました。今年度の 1 年生は統合後、初めての 1 年生です。ドキドキとワクワクが入り混じった表情でしたが、式中の話もしっかり聞くことができていました。

統合したことで、適正規模学校と同じくらいの 1 クラスの児童数で学校生活をスタートさせることができました。

これからたくさんの友達をつくり、学習し、いろいろな行事を通して楽しく学校生活を送ってほしいと思います。

学校生活は、子どもたちがこれまで過ごしてきた生活とはリズムや環境が大きく変わってきます。必ずしも自分の思い通りにならないこともあります。しかし、そのような中で社会性を身に付けるのも学校生活の大切な役割の一つです。

学校は大人になっていくために色々な練習をする場であると思います。何事も練習しておかないとうまくいかないことが多いと思います。そして、練習する中では失敗することもあります。それでも続けることで自分の力を高めたり、蓄えたりすることができます。

1 年生にとって、入学は大きな節目であり、未知の世界の第一歩です。少しずつでも慣れていき、充実した学校生活を送ってほしいと思います。

始業式から統合式・入学式まで、子どもたちが一緒に活動している様子を見ると、ドキドキもあるかもしれませんが、それ以上にワクワクしているような感じがします。

あおなみ-Blue Wave-



令和 7 年度始動

令和 7 年度が始まりました。本年度より本校校長として着任いたしました橋口亨（はしぐち とおる）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年度は本校にとって特別な年度となります。遠竹小・長里小・小長井小が一つの小学校として統合された初年度です。「小長井」の小学校として、小長井町各地区の子どもたちが共に学び、共に育つ場として学校運営を職員一同尽力してまいります。

保護者の皆様、地域の皆様には、本校教育活動にご理解ご協力をいただくことになると存じますが、よろしくお願いいたします。

令和 7 年度学校経営方針について

本年度の学校教育目標を「互いの良さを認め、自己実現を目指す子どもの育成」としました。

これは、小長井町内の 3 小学校が統合したことから「互いの良さを認め」という前段の部分に子どもたちがそれぞれの良さ・個性を融和させていくという思いを、「自己実現を目指す」という後段に、なりたい自分になれる素地をつけ、義務教育学校での充実した学びへとつなげていきたいという思いを込めています。

また、この学校教育目標実現のため、子どもたちには「こ・な・が・い」のスローガンに基づく目標をもたせていきます。

【こ…ことば】 言葉づかいやあいさつ、書き言葉を通して相手を思いやること

【な…なかま】 新しい仲間が増えます。同学年・異学年問わず仲間を大切にすること

【が…がんばり】 粘り強く物事に取り組み、挑戦すること

【い…いきいき】 心も体も元気いっぱい生活すること

小学生の時期は、今後子どもたちが直面するであろう諸々のことさらに、自らの力で臨めるようになるための土台を作っていく時期です。その土台作りとしてこの教育目標やスローガンを活用して日々の教育活動に取り組んでまいります。

令和 7 年度学校経営方針、小長井小生活のきまり、年間行事予定を学校ホームページに掲載しております。右上の二次元コードからアクセスしていただけます。